資料７

地域の鳥獣捕獲の担い手確保に関する意見交換資料

１　調査（アンケート）の実施概要

（　）内は回答数

基礎調査（R7.11実施）	対象: 空知地域野生鳥獣等対策連絡協議会構成員	75 （39）
追加調査Ａ（R7.12実施）	対象: 空知管内市町	24 （24）
追加調査Ｂ（R7.12実施）	対象: 空知管内の狩猟関係団体	10 （9）

２　基礎調査の結果

⑴　地域における鳥獣捕獲の担い手を確保・育成するために必要と考える取組について、次の事項から5つを選択してください。

【各選択肢と選択率】

①	41%	道内の野生鳥獣をめぐる現状と課題の周知・普及啓発
②	41%	鳥獣の管理や狩猟・駆除等への理解・関心を高めるための情報発信
③	26%	鳥獣の管理や狩猟・駆除等への理解・関心を高めるためのイベントの開催
④	41%	狩猟免許の取得促進に向けた講習・研修の開催
⑤	18%	狩猟免許試験の開催回数や場所の増加
⑥	21%	猟友会による狩猟免許試験事前講習への支援
⑦	3%	道外ハンターの誘致を目的としたPRイベントの開催
⑧	69%	市町村の捕獲従事者への報償費等上乗せ
⑨	69%	市町村の捕獲従事者の捕獲経費（弾丸・ガソリン代等）への支援
⑩	8%	初心者向けのわな技術講習・研修の開催
⑪	23%	初心者向けの射撃技術講習・研修の開催
⑫	10%	中堅ハンター向けエゾシカ捕獲等の実践的な講習・研修の開催
⑬	26%	ヒグマの春期管理捕獲を活用したベテランハンターによる捕獲技術の伝承
⑭	49%	ヒグマの捕獲経験の少ないハンター向けの捕獲技術講習・研修の開催
⑮	5%	他市町村におけるヒグマ管理捕獲を活用したインターン研修の開催
⑯	15%	地域の担い手確保検討会の開催
⑰	31%	道内ハンターや市町村捕獲従事者が行う射撃練習経費への支援
⑱	3%	道内射撃場の運営経費への支援
⑲	0%	道内射撃場の設備改修等経費への支援
⑳	5%	射撃やワナ等の捕獲技術研修施設の整備

※ 25%以上（４機関等に１機関等以上が選択）の項目は、深掘りするために追加調査を実施する。

⑵　地域における鳥獣捕獲の担い手の確保・育成に必要と考える取組がありましたら、具体例を記載してください。

※以下、自由記載による回答

【体制・制度関係】

㉑ 広域連携（複数市町）による体制づくり　⇒　追加調査実施

㉒ 警察、自衛隊なども含めたガバメントハンターの養成　⇒　追加調査実施

㉓ 警察での捕獲が可能になること

㉔ 報酬等の引き上げと全道一律の単価設定　⇒　追加調査実施

【普及・理解促進】

㉕ 課題等を公開した上での地域の理解の醸成

㉖ 農業者が自ら狩猟・駆除者になるような講習会や各種支援の実施

㉗ ルールを守れる方を見極めた上での普及促進

㉘ 動員を要請したハンターの勤務先への有給休暇扱いの働きかけ

【ハンターの技術向上】

㉙ 射撃技術講習会等への参加に伴う報酬の支払い　⇒　追加調査実施

㉚ 猟場対応経験を積むための国有林、道有林での狩猟可能区域の拡大

【ハンターになるまでの支援】

㉛ 試験から猟銃取得までの経費の支援　⇒　追加調査実施

㉜ 猟銃許可取得に伴う助成　⇒　追加調査実施

㉝ 銃砲等の購入支援　⇒　追加調査実施

㉞ 銃刀法の規制緩和協力　⇒　追加調査実施

⑶　これまで実施された鳥獣捕獲の担い手確保・育成の取組の中で効果があったものについて、具体的な取組内容や効果を記載してください。

※以下、自由記載による回答

【体制整備】

㉟ 地域おこし協力隊制度の活用　⇒　追加調査実施

【技術向上】

㊱ 新人育成講習の開催

㊲ アライグマ捕獲研修会の実施

㊳ ヒグマの春期管理捕獲の実施

【ハンターになるまでの支援】

㊴ 狩猟免許試験・更新講習費用補助（４市町）

㊵ 狩猟免許試験事前講習受講料補助（４市町）

㊶ 猟銃所持許可取得費用補助（２市町）

㊷ 猟銃等購入補助（２市町）

3　追加調査の結果

⑴　①の深掘り　追加調査Ａ・Ｂ（対象：市町・狩猟関係団体）

道内の野生鳥獣をめぐる現状と課題の周知・普及啓発について、どのような内容を優先して周知する必要があると考えますか。次の事項から上位３つまで選択してください。

a	76%	野生鳥獣による影響・被害状況
b	42%	野生鳥獣管理の考え方
c	70%	ヒグマ・エゾシカの捕獲に対する理解
d	12%	国が実施している野生鳥獣対策の取組
e	30%	道が実施している野生鳥獣対策の取組
f	12%	市町が実施している野生鳥獣対策の取組
g	9%	捕獲した個体の有効活用
h	18%	アライグマ等の外来生物に関すること
i	21%	狩猟免許試験に関すること

⑵　②の深掘り　追加調査Ａ・Ｂ（対象：市町・狩猟関係団体）

鳥獣の管理や狩猟・駆除等への理解・関心を高めるための情報発信について、どのような媒体の活用が効果的と考えますか。次の事項から上位３ついまでを選択してください。

a	12%	チラシ配付
b	24%	ポスター掲示
c	21%	新聞広告
d	45%	TVCM・ラジオCM
e	6%	電車・バス等での中吊り広告
f	36%	公式ホームページ
g	67%	SNS
h	18%	インフルエンサーとのコラボ企画
i	30%	野生鳥獣に関するイベントの開催

その他意見等

- テレビ番組
- 選択肢ｈについて、真剣に取り組む人を探すべき。ヒグマに立ち向かうのは命がけ

⑶　③の深掘り　追加調査Ａ・Ｂ（対象：市町・狩猟関係団体）

鳥獣の管理や狩猟・駆除等への理解・関心を高めるためのイベントの開催について、どのようなイベントが効果的と考えますか。次の事項から上位２つまでを選択してください。

a	55%	狩猟に関するフォーラム
b	42%	学生向けの出前講座
c	30%	ジビエに関する料理教室
d	12%	インフルエンサーによるトークショー
e	33%	分野の異なるイベントへブースの出展

⑷ ④の深掘り　追加調査Ａ・Ｂ（対象：市町・狩猟関係団体）

狩猟免許の取得促進に向けた講習・研修の開催について、どのような方に優先して開催する必要があると考えますか。次の事項から上位２つまでを選択してください。

a	58%	広く一般を対象
b	12%	地方自治体等の行政職員
c	24%	警察、自衛隊のOB・OG
d	39%	農林業従事者
e	18%	学生

その他意見等
- 営利目的ではなく、地域に貢献できる方
- 選択肢ｃについて、現職時から銃を所持する人に対して行うべき。退職後に養成は遅すぎる。
- そもそも公安委員会は猟銃所持者を増やしたくないのに矛盾が多すぎる。

⑸ ⑧⑨㉔の深掘り　追加調査Ｂ（対象：狩猟関係団体）

捕獲経費等の支払いについて、どの程度の金額や人数が必要と考えますか、次の事項ごとに記載してください。※人件費や消耗品（弾丸、ガソリン代等）等の合計額を記載してください。

⇒　設問が下記のとおり不適切であったため、回答の視点がバラバラとなってしまいました。
また、「地域性、環境等により一概には言えない。」、「必要人数は状況により異なる。」との意見もいただいたことから、<u>今回のフィードバックは見合わせていただきます</u>。

a	ー	ヒグマの捕獲（銃）/1頭	（　～　円）×（　人）
b	ー	ヒグマの捕獲（わな）/1頭	（　～　円）×（　人）
c	ー	ヒグマのわなの見回り/1回	（　～　円）×（　人）
d	ー	ヒグマの出没対応/1回	（　～　円）×（　人）
e	ー	エゾシカの捕獲（銃）/1頭	（　～　円）×（　人）
f	ー	エゾシカの捕獲（わな）/1頭	（　～　円）×（　人）
g	ー	エゾシカのわなの見回り/1回	（　～　円）×（　人）
h	ー	アライグマの捕獲/1頭	（　～　円）×（　人）
i	ー	アライグマのわなの見回り/1回	（　～　円）×（　人）
j	ー	今回は回答を見合わせたい。	

「×」を入れたことで、金額欄に１頭の全経費を書くのか、人数で割った一人当たりの金額を書くのか判然としなくなってしまいました。

⑹ ⑬の深掘り　追加調査Ｂ（対象：狩猟関係団体）

ヒグマの春期管理捕獲の実施について、どんなことが障害となると考えますか。次の事項から上位３つまでを選択してください。

a	11%	春期管理捕獲に適した場所がないこと
b	33%	指導者がいないこと
c	67%	指導者が高齢であること
d	33%	体力的な負担
e	67%	想定する参加者の銃猟経験不足
f	67%	捕獲に伴う危険
g	33%	捕獲経費等の支払額

その他意見等
- 国の方針

⑺ ⑬の深掘り　追加調査Ａ・Ｂ（対象：市町・狩猟関係団体）

ヒグマの春期管理捕獲を活用したベテランハンターによる捕獲技術の伝承について、どのような方法で実施することが効果的と考えますか。次の事項から選択してください。（複数回答可）

a　73%　地元のベテランハンターが実地形式で伝承
b　18%　地元のベテランハンターが座学形式で伝承
c　36%　外部の有識者が座学形式で講義
d　55%　外部で実施しているヒグマの春期管理捕獲に参加

その他意見等
・　特に危険を感じた体験談が重要

⑻ ⑭の深掘り　追加調査Ａ・Ｂ（対象：市町・狩猟関係団体）

ヒグマの捕獲経験の少ないハンター向けの捕獲技術講習・研修の開催について、どのような内容を優先して開催する必要があると考えますか。次の事項から上位２つまでを選択してください。

a　39%　出没時の痕跡確認
b　15%　出没時のパトロール
c　18%　わなの設置、見回り
d　24%　わなで捕獲した際の止めさしの方法
e　52%　射撃技術
f　48%　ヒグマの生態、特性

その他意見等
・　経験者に同行することを重点に行うべき
・　通報対応を行える者を育てるのか、銃猟できるものを育てるのか、罠の対応ができるものを育てるのか、目的により異なる。

⑼ ⑰㉙の深掘り　追加調査Ｂ（対象：狩猟関係団体）

道内ハンターや市町村捕獲従事者が行う標準的な射撃練習経費はどのくらいですか。次の事項ごとに記載してください。

		弾数（平均値）	金額（平均値）
a	ライフル	10 ～ 41 発	10,200 ～ 42,000 円
b	ハーフライフル	10 ～ 41 発	14,700 ～ 60,000 円
c	散弾銃	90 ～ 584 発	9,660 ～ 67,200 円

※未回答４団体⇒　「人により異なるので一概に言えない。」との意見あり

⑽ ㉑の深掘り　追加調査Ａ（対象：市町）

「広域連携（複数市町）による体制づくり」について、どのような連携を広域で行うことが効果的と考えますか。次から選択してください。（複数回答可）

a　79%　ヒグマの出没情報等の共有
b　42%　ヒグマの春期管理捕獲の共同実施
c　29%　エゾシカ・アライグマの生息状況等の共有
d　21%　エゾシカ一斉捕獲推進期間における捕獲の共同実施
e　25%　担当職員の応援派遣
f　38%　ガバメントハンターの共同雇用

⑾ ㉒の深掘り　追加調査Ｂ（対象：狩猟関係団体）

警察、自衛隊、ガバメントハンターの活動について、特に期待することを選択してください。（複数回答可）

a	78%	ヒグマの捕獲（銃）
b	67%	ヒグマの捕獲（わな）
c	56%	ヒグマのわなの見回り
d	67%	ヒグマの出没対応
e	44%	エゾシカの捕獲（銃）
f	44%	エゾシカの捕獲（わな）
g	22%	エゾシカのわなの見回り
h	33%	アライグマの捕獲
i	22%	アライグマのわなの見回り

その他意見等
- ガバメントハンターの定義や役割が定まっていないと回答が難しい。
- ガバメントハンターという表現に違和感がある。
- 特に期待することはない。

⑿ ㉛～㉞の深掘り　追加調査Ａ・Ｂ（対象：市町・狩猟関係団体）

狩猟免許の取得者を増やすに当たり、どのような支援を行うことが効果的と考えますか。次の事項から上位３つまでを選択してください。

a	55%	狩猟免許試験の受験に係る費用
b	27%	狩猟免許更新に係る費用
c	45%	銃所持許可取得に係る費用
d	55%	猟銃購入費用
e	52%	弾丸、ガンロッカー等の購入費用
f	9%	エゾシカ用わなの購入費用
g	27%	射撃訓練に係る費用

その他意見等
- 銃所持等の法改正

⒀ ㉟の深掘り　追加調査Ａ（対象：市町）

※その他意見等の２つ目は狩猟関係団体からの意見

「地域おこし協力隊制度の活用」について、野生鳥獣に関係する活動を行う協力隊が移住してくると仮定して、どのような活動を期待したいですか。次から選択してください。（複数回答可）

a	92%	ヒグマの捕獲活動
b	79%	エゾシカの捕獲活動
c	75%	アライグマの捕獲活動
d	21%	電気柵設置（指導）
e	54%	ヒグマの出没抑制のための草刈り
f	33%	食肉に関する有効活用
g	25%	食肉以外（皮、骨等）に関する有効活用

その他意見等
- 解体
- 地域おこし協力隊は、指導をしても、結果いなくなってしまうので、同意できない。